



発行日 平成 23年 1月 第 35 号

日頃、地域医療連携室にご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

共同利用病床（オープンベッド）は、かかりつけ医を基本とした患者さんの医療を切れ目なく繋ぎ、早期に在宅生活に復帰できるよう支援する上で、重要な役割を果たします。

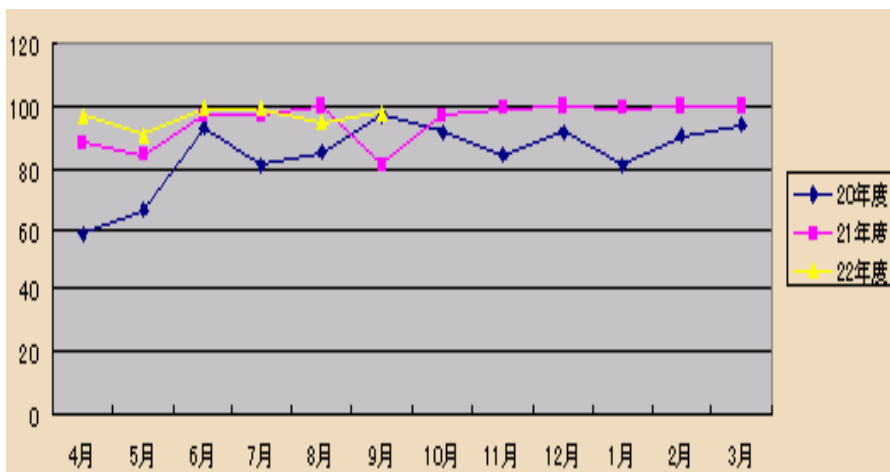
オープンベッドの円滑な運用を図るため、共同利用病床運用委員会が行われましたので、その一部をご報告いたします。

地域医療連携室 大沢 知佳

共同利用病床運用委員会を終えて

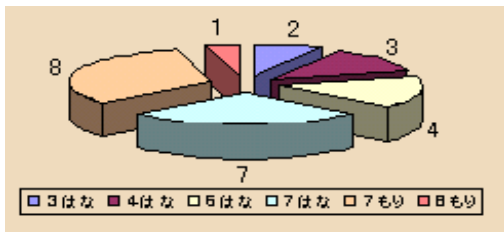
H22年11月16日、平成22年度共同利用施設運用委員会が開催されました。横手保健所長、横手市医師会長をはじめ、6名の外部委員と、当院の院長、副院長、関係者、合わせて19名の出席をいただきました。委員会では、オープンベッドの利用状況とアンケート結果について報告し、委員の方々からよりよい運用に向け、貴重なご意見をいただきました。メリットを感じながらも、時間的な面で課題が残るようです。連携室としても、より効率的な対応ができるよう努めてまいります。

1. オープンベッドの月平均利用率の推移



今年度の平均利用率は96.5%でした。開設以来、算定要件の10%を維持しており、運用上の問題はありません。

2. 病棟別利用回数



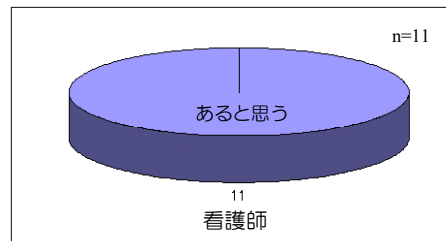
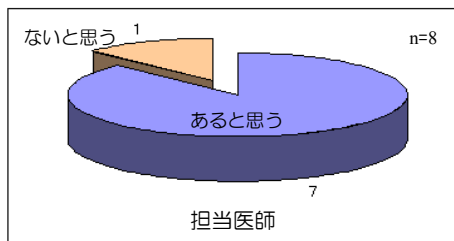
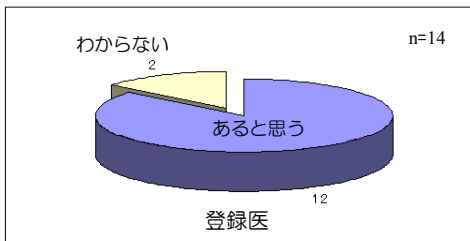
3. 疾患別 (H19年度～22年度)

疾患名	件数
感染症	58
脳梗塞・脳出血	26
心不全・AMI	10

疾患名では脳血管障害を基礎疾患とした感染症が多く、患者の約6割が7階はな・もり病棟への入院となりました。

4. オープンベッドに関するアンケート結果 (H22年10月20～29日)

1) 患者にとってのメリットの有無



2) 各職種にとってのメリットの有無

